

# 日医ニュース

2021. 1. 5 No. 1424

**日本医師会**  
Japan Medical Association

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16  
電話 03-3946-2121(代)  
FAX 03-3946-6295  
E-mail www.info@po.med.or.jp  
https://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



- トピックス**
- 定例記者会見 ..... 2~3面
  - 菅総理と国立国際医療研究センター視察 ..... 4面
  - 日本医師会10大ニュース2020 ..... 8面

## 令和3年 年頭所感

公益社団法人 日本医師会 会長

中川 俊男



明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、コロナ禍において通常とは異なる新年をお迎えになられていらっしゃる方も多いと思います。昨年は、新型コロナウイルス感染症が世界中に猛威をふるいました。わが国においても国民は新しい生活様式を求められていますが、新型コロナウイルス感染症は完全に終息しないといわれ、今後ある程度の収束を迎えたとはいえず、現在の就業形態を含む生活様式の一部は定着していくものと考えられます。

そのような中、会員の先生方におかれましては各地域で行政と協力し合い、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐさまざまな取り組みに日々ご尽力下さっていることに深く感謝申し上げます。わが国に限らず、医療従事者のこのような献身的な努力に対して、多くの国民から感謝とエールが送られたことは、高承のとおりです。

さて、新たな執行部が昨年6月27日に発足してから6カ月が経ちました。この間、新型コロナウイルス感染症への対応、そのことに連動した医療機関経営の危機的状況への対応、オンライン診療への対応など、激動する社会情勢の中、私は、国民、地域住民の健康を第一に、全国の医師会ひいては会員の先生方と連携して、執行部一丸となって柔軟かつ強靱な対応力をもって業務を遂行して参りました。

また、昨年9月16日に菅内閣が発足いたしました。菅義偉内閣総理大臣が述べられた「目指す社会像は、自助、共助、公助、そして絆だ」との言葉は、わが国の社会保障の根幹である国民皆保険が、自助、共助、公助の三要素から成り立っていることに通じるものがあります。日本医師会は改めてこの精神を全うし、国民が安心して医療を受けられることを基本として、これら三要素が適切なバランスを保ちつつ

国民皆保険が守られるよう、しっかりと対応して参ります。そのためにも、これまで以上に国民に寄り添い、医師個人が加入する専門家集団の立場から発信を続けて参ります。

菅総理は、オンライン診療の恒久化に言及されています。日本医師会の基本スタンスとして、解決困難な要因によって医療機関へのアクセスが制限されている場合に、対面診療を補完するもの、という考えに変わりはありません。オンライン診療を行う上での「安全性と信頼性」はかかりつけ医療を軸にするべきであり、今後、地域医療を担う医師、患者・国民の双方が、真に納得することのできる仕組みづくりを目指して、政府や国の審議会における議論に臨んでいきます。

一方、ICTやデジタル技術など、技術革新の成果を、医療の安全性、有効性、生産性を高める方向に向けることは大変重要な視点と考えています。今回の新型コロナウイルス感染症への対応においては、ICTが主に利用されるなど、日本の医療分野でのICT化の遅れが浮き彫りとなりました。平時、有事の双方で、良質かつ適切な医療が提供できるよう、医療のICT化を積極的に進めて参ります。

日本医師会は、今後の医療政策策定に当たっては、初期段階よりしっかりと関与していくことはもちろん、適切な合意形成プロセスに則り、政策遂行に当たっていく所存であります。更に、地域医師会を全面的にバックアップし、医療現場が安心して医療に集中できるようさまざまな施策を国に提案して参ります。

会員諸氏の深いご理解と更なるご支援をお願い申し上げます。本年が国民にとって明るい展望が開ける年となりますことを祈念し、新年のごあいさつといたします。

### 四師会・四病協・東京都医師会合同記者会見

## 医療関係9団体で「医療緊急事態」を宣言



同記者会見を実施し、「医療緊急事態」を宣言した。

今回の宣言は九つの医療関係団体の一致した意見として取りまとめられたものである。その中で

は、国民に安心して新年を迎えてもらうため、国や地方自治体に対して、国民への啓発並びに医療現場の支援のための適切な施策を要請するとともに、医療関係団体として、国民の生命と健康を守るため、地域の医療及び介護提供体制を守り抜くとの決意を表明。また、国民には引き続き徹底した感染防止対策を求めている。

冒頭あいさつした中川俊男会長は、「日本が世界に誇る医療制度が風前の灯火の状況にある」と述べ、現状に危機感を示すとともに、政治家に対

して批判や牽制ではなく、建設的な議論に限られた時間を費やすことを、政府に対しては勇気をもって早め早めに対策を打ち出すことをそれぞれ要求。その上で、二万全の感染防止対策が最強の経済対策になることを改めて強調するとともに、「コロナに大手を振って新しい年を迎えさせるわけにはいかない」として、国民に過酷な医療現場に思いを馳せ、今できる対策の全てを実行することを求めた。

引き続き、釜淵敏常任理事が宣言の全文を朗読。今回の会見に合わせ、都道府県医師会に地域住民、医療機関に向けたメッセージを募集したことを明らかにするとともに、寄せられたメッセージは地域ごとの切実な訴えであるとして、理解を求めた。

その後は、各団体から所見が述べられた。堀憲郎日本歯科医師会長は「今回の宣言の趣旨を理解し、自らできる対策を徹底して欲しい」と要請。山本信夫日本薬剤師会長は「これ以上の感染拡大が続けば、医薬品の提供にも影響が出かねない」として、国にその対策を求めた。

尾崎治夫東京都医師会長は「今、感染者数を減らさなければ、日本の医療は崩壊してしまう」とその窮状を訴えるとともに、「年末年始が本当の勝負だ」として、国民にしっかりと感染対策の徹底を求め、政府からも強い声明を出すべきとの考えを示した。

福井トシ子日本看護協会会長は看護士の離職が増加している現状を危惧。このままでは救える命も救うことができなくなる」として、看護師が看護業務に専念できる体制整備を要求した。

相澤孝夫日本病院会長はこれ以上の感染拡大を防ぐためには、個人個人の努力に頼るだけでは難しくなっていると指摘。国には地方自治体が連携し、国民の行動を制限するような対策を取ってほしいと要請した。

猪口雄二全日本病院協会会長は病床不足をすぐに解消するのは難しいことに理解を求めるとともに、国に対して迷わず新たな政策を実施して欲しいと要求。長瀬輝道日本精神科病院協会副会長は「国家が本腰を入れてこの事態を解決してもらいたい」とした他、伊藤伸一医療法人協会会長代行は「医療現場は崩壊しかけています。国民には自らの行動管理が命を守るという意識を持って欲しい」と述べた。

その後は、各団体から所見が述べられた。堀憲郎日本歯科医師会長は「今回の宣言の趣旨を理解し、自らできる対策を徹底して欲しい」と要請。山本信夫日本薬剤師会長は「これ以上の感染拡大が続けば、医薬品の提供にも影響が出かねない」として、国にその対策を求めた。

尾崎治夫東京都医師会長は「今、感染者数を減らさなければ、日本の医療は崩壊してしまう」とその窮状を訴えるとともに、「年末年始が本当の勝負だ」として、国民にしっかりと感染対策の徹底を求め、政府からも強い声明を出すべきとの考えを示した。

尾崎治夫東京都医師会長は「今、感染者数を減らさなければ、日本の医療は崩壊してしまう」とその窮状を訴えるとともに、「年末年始が本当の勝負だ」として、国民にしっかりと感染対策の徹底を求め、政府からも強い声明を出すべきとの考えを示した。



# 日医 定例記者会見

令和2年12月9・16日

## 年末年始に向けて 基本的な感染防止対策の 徹底を要請

日に菅総理と会談した際に、「新型コロナウイルス感染症対応に当たっている医療従事者の励みになるので、医療現場を視察して欲しい」とお願いし、実現したものであるとその経緯を説明することにも、菅総理からは「国とすることができる限りの支援を行う」との考え

中川俊男会長は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を受けて日本医師会の見解を説明。年末年始に向けて、基本的な感染防止対策の徹底を要請した。



更に、中川会長は、日本医師会や地域の医師会では、これまでも記者会見などメディアを通じて、「医療従事者への一番の支援は、感染を極力広げないことである」「最強の感染拡大防止策は、国民一人ひとりの日常の慎重な行動と所作である」と国民に徹底した感染対策をお願いしてきたが、その思いが着実に届き、共感を得て、行動の自粛につながっていることを実感していると述べるとともに、「今後は地域の医師会とも協力し、住民に対して、地域の現状や現場の生の声、呼び掛けなどを地元のマスメディアやSNSなどを通じて積極的に発信していく」として、各地域のテ

レビ局、ブロック紙等、マスコミに対してその支援を求めた。

最後に中川会長は、年末年始の休暇を控え、帰省の移動による感染拡大の懸念を示し、「新型コロナウイルスに年末年始はありま

### 令和2年の漢字は「命」

その他、中川会長は記者との質疑応答の中で、「今年度の漢字を問われたことに対して、「国民の命を守るために医療従事者が命懸けで頑張っていることから、『命』を選んだ」と述べるとともに、新型コロナウイルスにより生命と健康が脅かされる不安を抱き続けた1年を振り返り、「今後も日本医師会は、国民の生命と健康を守っていく」と強調した。

前に「今年はずかなクリスマス、Silent Nightで過ぎて頂きたい」と国民に呼び掛けた。

## 全世代型社会保障検討会議の 最終報告取りまとめなど 最近の政府の動向について

中川会長は、昨年12月14日に政府の全世代型社会保障検討会議において「全世代型社会保障改革の方針（案）」が取りまとめられ、翌15日に閣議決定されたことを受け、日本医師会の見解を説明した。

中川会長はまず、今回の最終報告に関し、同会議に招かれ、自身が説明した①後期高齢者の患者負担割合のあり方②「外来機能分化」と「2000床以上の一般病院への定額負担拡大」について、日本医師会の意見を述べた。

「2000床以上の一般病院への定額負担拡大」については、大病院への患者集中を防ぎ、かかりつけ医機能の強化を図るための定額負担の拡大として、最終報告では、「医療提供体制の改革において、地域の実情に応じて明確化される『紹介患者への外来を基本とする医療機関』のうち一般病床200床以上の病院にも対象範囲を拡大する。また、より外来機能分化の実効性が高まるよう、保険給付の範囲から一定額

が28万円以上（所得上位30%）かつ年収200万円以上（単身世帯の場合、複数世帯の場合は、後期高齢者の年収合計が320万円以上）の方に限って、その医療費の窓口負担割合を2割とし、それ以外の方は1割とする」とされたことに対しては、2割負担となる対象者の範囲を狭めるよう求めてきた日本医師会の思いとは乖離があると指摘。多くの疾患を持つ高齢者の受診が費用負担の面から抑制されることがないよう工夫するなど、高齢者の負担に配慮した仕組みとなるよう引き続き要望していくとともに、「2割が増えた患者負担分が医療機関の収入にはならないことを国が責任を持って国民に丁寧に説明し、周知して欲しい」と訴えた。

これに関して、今後、「紹介患者への外来を基本とする医療機関」については、厚生労働省の審議会等で議論される際に、病院団体ともしっかりと連携し、地域医療に混乱を来さないように取り組んでいくとの姿勢を示した。

また、不妊治療への保険適用等については、最終報告で「令和3年度（2021年度）中に詳細を決定し、令和4年度（2022年度）当初から保険適用を実施することとし、工程表に基づき、保険適用までの作業を進めることされたことを受け、来年夏頃までに学会のガイドラインを完成させた後に行われる中医協での議論に向けて、今後しっかりと検討していくとの意向を示した。

「紹介患者への外来を基本とする医療機関」については、厚生労働省の審議会等で議論される際に、病院団体ともしっかりと連携し、地域医療に混乱を来さないように取り組んでいくとの姿勢を示した。

更に、ヒアリングに招かれた際に、再診時における定額負担の徴収が極めて少ないことから、再診時の定額負担を強化する関係折衝で正式に決定するとの報道（※17日に薬価改定の対象を乖離率5%を超える品目とする）が正式に決まったことにも言及。健康保険法では、診察、薬剤の支給、処置などの療養の給付を受けることができることとされており、日本医師会は、健康保険法において薬剤は診察等と不可分一体であり、その財源を切り分けることは不適当と考えられており、これまでも薬価改定財源は医療費本体に充当すべきと主張してきたと説明。「コロナ禍の現状において、国民の生命を守るために最前線で活動する医療機関支援の原資とするなど、診療報酬上で中間年に加算をし、医療費財源に充てるべき」と主張した。

「紹介患者への外来を基本とする医療機関」については、厚生労働省の審議会等で議論される際に、病院団体ともしっかりと連携し、地域医療に混乱を来さないように取り組んでいくとの姿勢を示した。

更に、ヒアリングに招かれた際に、再診時における定額負担の徴収が極めて少ないことから、再診時の定額負担を強化する関係折衝で正式に決定するとの報道（※17日に薬価改定の対象を乖離率5%を超える品目とする）が正式に決まったことにも言及。健康保険法では、診察、薬剤の支給、処置などの療養の給付を受けることができることとされており、日本医師会は、健康保険法において薬剤は診察等と不可分一体であり、その財源を切り分けることは不適当と考えられており、これまでも薬価改定財源は医療費本体に充当すべきと主張してきたと説明。「コロナ禍の現状において、国民の生命を守るために最前線で活動する医療機関支援の原資とするなど、診療報酬上で中間年に加算をし、医療費財源に充てるべき」と主張した。

### GO TOトラベル 一時停止を評価

また、同日14日に菅総理がGO TOトラベルを12月28日から来年1月11日まで全国一斉に停止すると表明されたことに触れ、GO TOトラベルについて、日本医師会は医療の専門家集団として、「国民の生命と健康

中川会長は、昨年12月14日に菅義偉内閣総理大臣と共に新型コロナウイルス感染症対策で中核的な役割を担う国立国際医療研究センター（NCGM）を視察したことを報告。今回の視察は12月1

中川会長は、昨年12月14日に政府の全世代型社会保障検討会議において「全世代型社会保障改革の方針（案）」が取りまとめられ、翌15日に閣議決定されたことを受け、日本医師会の見解を説明した。

中川会長はまず、今回の最終報告に関し、同会議に招かれ、自身が説明した①後期高齢者の患者負担割合のあり方②「外来機能分化」と「2000床以上の一般病院への定額負担拡大」について、日本医師会の意見を述べた。

中川会長はまず、今回の最終報告に関し、同会議に招かれ、自身が説明した①後期高齢者の患者負担割合のあり方②「外来機能分化」と「2000床以上の一般病院への定額負担拡大」について、日本医師会の意見を述べた。

中川会長はまず、今回の最終報告に関し、同会議に招かれ、自身が説明した①後期高齢者の患者負担割合のあり方②「外来機能分化」と「2000床以上の一般病院への定額負担拡大」について、日本医師会の意見を述べた。

中川会長はまず、今回の最終報告に関し、同会議に招かれ、自身が説明した①後期高齢者の患者負担割合のあり方②「外来機能分化」と「2000床以上の一般病院への定額負担拡大」について、日本医師会の意見を述べた。

中川会長はまず、今回の最終報告に関し、同会議に招かれ、自身が説明した①後期高齢者の患者負担割合のあり方②「外来機能分化」と「2000床以上の一般病院への定額負担拡大」について、日本医師会の意見を述べた。

中川会長は、昨年12月14日に菅義偉内閣総理大臣と共に新型コロナウイルス感染症対策で中核的な役割を担う国立国際医療研究センター（NCGM）を視察したことを報告。今回の視察は12月1

中川会長は、昨年12月14日に菅総理がGO TOトラベルを12月28日から来年1月11日まで全国一斉に停止すると表明されたことに触れ、GO TOトラベルについて、日本医師会は医療の専門家集団として、「国民の生命と健康

中川会長は、昨年12月14日に政府の全世代型社会保障検討会議において「全世代型社会保障改革の方針（案）」が取りまとめられ、翌15日に閣議決定されたことを受け、日本医師会の見解を説明した。

中川会長はまず、今回の最終報告に関し、同会議に招かれ、自身が説明した①後期高齢者の患者負担割合のあり方②「外来機能分化」と「2000床以上の一般病院への定額負担拡大」について、日本医師会の意見を述べた。

中川会長はまず、今回の最終報告に関し、同会議に招かれ、自身が説明した①後期高齢者の患者負担割合のあり方②「外来機能分化」と「2000床以上の一般病院への定額負担拡大」について、日本医師会の意見を述べた。

中川会長はまず、今回の最終報告に関し、同会議に招かれ、自身が説明した①後期高齢者の患者負担割合のあり方②「外来機能分化」と「2000床以上の一般病院への定額負担拡大」について、日本医師会の意見を述べた。

中川会長はまず、今回の最終報告に関し、同会議に招かれ、自身が説明した①後期高齢者の患者負担割合のあり方②「外来機能分化」と「2000床以上の一般病院への定額負担拡大」について、日本医師会の意見を述べた。

中川会長はまず、今回の最終報告に関し、同会議に招かれ、自身が説明した①後期高齢者の患者負担割合のあり方②「外来機能分化」と「2000床以上の一般病院への定額負担拡大」について、日本医師会の意見を述べた。



# コロナ禍における今日の 社会経済状況（失業、 労災認定、生活保護、 自殺）に関して



松本吉郎常任理事は、コロナ禍における今日の社会経済状況として、(1)失業、(2)労災認定、(3)生活保護、(4)自殺—等のデータを示しながら、日本医師会の見解を説明した。

(1)では、本年10月の完全失業者のうち、「勤め先や事業の都合による離職」は45万人と、前年同月に比べ22万人増加となり、女性の完全失業者数も「15〜24歳」を除く全ての年齢階級で、前年同月に比べ増加していることを説明。

(2)では、新型コロナウイルス感染症に関する労災請求件数が、医療従事者等で1705件（医療業では1302件）となっている（なお、業務外で感染したことが明らかである場合を除き、原則として労災保険給付の対象とされている）と述べた。

(3)では、生活保護受給者数は令和2年9月現在で204万9409人であり、前同月比マイ

## 自殺）に関して

ナス1・1%となっていることについて、雇用調整助成金、生活福祉資金貸付制度の特例貸付や住居確保給付金など新型コロナウイルス感染症に係る各支援措置が効いていると考えられるが、現在の状況が続くと生活保護が増えるという可能性があると述べた。

(4)では、月別自殺者数の推移において、本年6月の緊急事態宣言の解除後、自殺者が増加している（図）とする。その要因としては、コロナ禍で浮き彫りになった女性の非正規雇用者の増加などが、自殺者数の増加に影響している可能性があるとした。また、医療従事者や介護従事者等は、労災請求情報の内容を見ると従来から精神障害での労災が多いなど、メンタルヘルスの影響を受けやすいハイルスク者とされている

が、コロナ禍において過重な身体的・精神的ストレスが加わっていることに懸念を表明。その他、コロナ禍でのメンタルヘルスへの影響・課題として、テレワークの推進によって新たなストレスが増えるだけでなく、新型コロナウイルスの影響もあり、企業による従業員のメンタルヘルスに関するケアが難しい状況にあること等を紹介した。

更に、今後の見通しとして、失業率が1%増えると自殺者総数が1000〜2000人増えるとの報告もあることに触

れ、「コロナ感染そのものによる死亡者数よりも、数では大きくなること」が想定される。また、失業率増加の後を追って自殺者数が増加することが多いため、雇用を守ることに命を守ることにつながることの啓発、失業対策等の十分な広報、その不安に対するメンタルヘルスの実施と長期的継続が必要」との考えを示した。

## 産業医等の支援に取り組む

その上で、同常任理事は、①新型コロナウイルス

感染拡大を減らすことが最大の経済対策につながる②そのためにも医療・介護現場を含め、コロナ禍における事業活動にも精神的にも健康的にも継続できる産業保健体制を行政と職場が共同して構築することが必要である③また、倒産や解雇による失業に伴うメンタルヘルス不調者や自殺者の増加対策も求められる—ことを説明し、今後も日本医師会として、社会経済状況を鑑み、産業医の支援等、社会貢献していく姿勢を示した。

## 新型コロナウイルス感染症を踏まえた診療に係る 特例的な対応について

松本吉郎常任理事は昨年12月14日に持ち回りで開催された中医協の審議を紹介するとともに、翌15日に厚生労働省から事務連絡が発出された、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた特例的な対応①外来における小児診療に係る評価②新型コロナウイルス感染症の回復患者の転院支援）についての留意点を説明した。

同日の中医協では、新型コロナウイルス感染症に伴う医療保険上の対応として、①に関しては、特に手厚い感染症対策が必要であることを踏ま

に直面している医療体制への支援が必要であることを繰り返し主張してきたことを紹介するとともに、「今回のような対応が示されたことについては一定の評価ができる。非常に頑張った診療に当たっている医療機関に（臨時的な対応を）届けることができて良かった」との所感を述べた。

その上で、①の留意点として、対象が小児科を標榜する医療機関には限定されていないことを挙げ、診療科だけでなく、病院・診療所等についても限定はされないことを強調した。患者やその家族等に対して、感染防止等に留意した対応をしっかりと行っている旨を十分に説明し、同意を得ることが必要（口頭でも可）とされていることについては、医療現場に理解を求めた。

また、②については、療養病棟や有床診療所も評価の対象となることを強調した。

更に、今回の措置は小児と後方支援病床への支援に限定されたものであり、決して十分とは言えないことから、引き続き、新型コロナウイルスへの対応に奮闘している全国の医療従事者に対して、精神的、人的・物的サポートが提供されるよう、更なる対応を要望していく考えを示した。

## 今回の措置で健康への悪影響の軽減を期待

同常任理事は、今回の対応への受け止めとして、「今回の措置をきっかけに医療機関が継続的に感染防止対

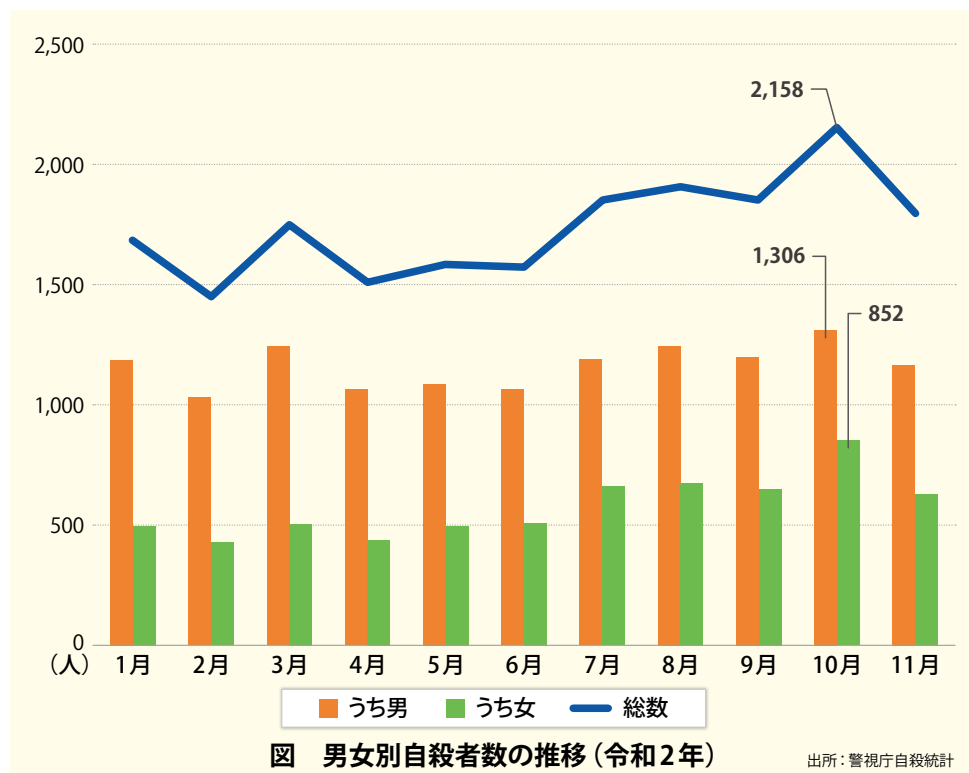
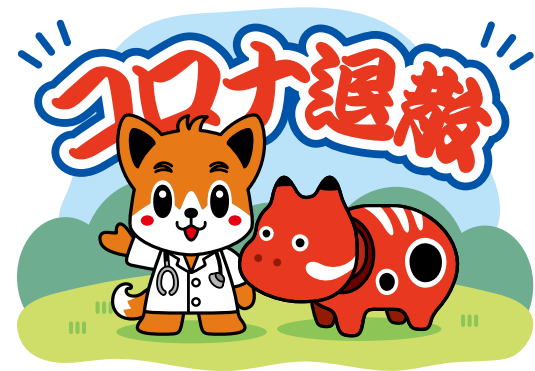


図 男女別自殺者数の推移（令和2年）

出所：警視庁自殺統計



中川会長

菅総理と共に  
国立国際医療研究センターを視察



とを受けて、実現したものである。

当日、中川会長は菅総理と共に、特殊感染症病棟の病室内で、E

CMOなど重症患者への対応、特殊防護

具を付けた挿管訓練、タブレット端末を用いてICU

病棟で活動する医療従事者の様子などを見学した。

その後の意見交換会では、まず、菅総理が中国の

武漢からの帰国者への対応等、同センターのこれまでの対応に感謝の意を示した上で、「新規感染者数が増加する中で、医療従事者に対してより効果的な支援を行う

ことが必要だと考えている。今日はぜひ、忌憚のない意見を聞かせて欲しい」と述べた。

今回の視察は12月1日に中川会長が菅総理と会談した際に、「日々新型コロナウイルス感染症対応に当たっている医療従事者の励みになるので、ぜひ、医療現場を視察して欲しい」と要請したこ

とを受けて、実現したものである。当日、中川会長は菅総理と共に、特殊感染症病棟の病室内で、E

ス感染症患者への取り組みや治療薬の開発状況等について説明。その他、同センター側からは「中等症患者を重症化させないことが大事になる」で

きるだけ呼吸器をつけずに対応したことに對する何らかのインセンティブ

年度第3次補正予算案を閣議決定した。現在開発が進められている新型コロナウイルスワクチンが接種可能となった場合の費用に關しては、厚生労働大臣の指示に基づき国の負担により実施することを踏まえ、

全国統一の単価で接種1回目、接種2回目ともに2070円(消費税については、定期接種の予防接種と同様の取り扱い。ワクチン代はワクチンを含むため、国が確保し供給するため、含まれていない)とする

ことが盛り込まれた。接種費用には、接種実施医療機関における事務費180円(一般的な事務費の他、感染防止対策やV-SYS入力手数料等を勘案)が含まれており、6歳未満の小児に接種が行われる場合には600円を加算することが

できる。なお、市町村が接種会場において集団的に接種を実施する場合に必要な接種費用についても、「医療従事者や誘導のための人員」「接種会場(待合室等を含む)の確保」「接種に要する器具等の確保」等の経費を2070円/回を上限として、国が負担すること

になっている。接種費用に關して、日本医師会では中川俊男会長、釜淵敏常任理事を中心に政府与党等に対して、ワクチン接種体制の構築のためには医療従事者や医療機関等の取り組みとして、地域医師会には新たな業務負担、人的負担、物的負担が発生するとして、適切な接種費用並びに手数料の設定を強く求めている。

政府は昨年12月15日に臨時閣議を開き、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、医療機関の支援等を盛り込んだ令和2

新型ウイルスワクチンの接種費用は事務費も含めて2070円に

政府は昨年12月15日に臨時閣議を開き、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、医療機関の支援等を盛り込んだ令和2

新型ウイルスワクチンの  
接種費用は事務費も含めて  
2070円に

を付けて欲しい」といった意見や、年末年始に向けて、検査を請け負う企業が長期の休みを取ることで、検査が滞ることへの懸念が示された。これらの意見に対して、菅総理は国としてできる限りの支援を行う考えを改めて表明。中川会長は「新型コロナウイルスに年末年始はない。開業医の先生方も頑張っているの

人事課 03-3942-6493・総務課 03-3942-6481/03-3942-6477・施設課 03-3942-7027・経理課 03-3942-6483・情報システム課 03-3942-6488・広報課 03-3942-6139・編集企画室 03-3942-6482・電子認証センター 03-3942-7050(0) 医療保険課 03-3942-6490・介護保険課 03-3942-6491・医薬経営支援課 03-3942-6519・年金福祉課 03-3942-6487・生涯教育課 03-3942-6486・日本医師会 03-3942-6135・会費情報室 03-3942-6140・医学図書館 03-3942-6482・電話相談センター 03-3942-7050(0)



# 令和2年度家族計画・母体保護法指導者講習会

## 性暴力被害による妊娠における人工妊娠中絶の同意書のあり方について



が昨年12月5日、テレビ会議システムで開催された。

シンポジウム「暴力がら女性・母性をまもるために」

は7・8%（約13人に1人）で、加害者との関係では「配偶者・元配偶者」26・2%、「交際相手・元交際相手」24・8%など、全体の90%が顔見知りによるものであること

が、加害者との関係が「配偶者・元配偶者」26・2%、「交際相手・元交際相手」24・8%など、全体の90%が顔見知りによるものであること

が、加害者との関係が「配偶者・元配偶者」26・2%、「交際相手・元交際相手」24・8%など、全体の90%が顔見知りによるものであること

が、加害者との関係が「配偶者・元配偶者」26・2%、「交際相手・元交際相手」24・8%など、全体の90%が顔見知りによるものであること

が、加害者との関係が「配偶者・元配偶者」26・2%、「交際相手・元交際相手」24・8%など、全体の90%が顔見知りによるものであること

令和2年度家族計画・母体保護法指導者講習会

よる人工妊娠中絶に係る配偶者の同意に関して

勝之日本産婦人科医会長

健康課長代読）並びに木下

交された経験をもつ女性

ナルオートノミーに基づき判断することが求められるとした。

石渡勇日本産婦人科医

会副会長は、同意書を求めないまま中絶手術を施行した後、夫より脅迫的なクレームが医療機関に寄せられたトラブル事例を報告。DVや強制性交罪等が成立するなど、一定の要件を満たせば例外的に配偶者の同意は不要であるが、紛争になった際に医師を守る仕組みが必要であるとした。

また、強制性交で妊娠した被害者が受診した際には、痛みに寄り添いつつ、ワンストップ被害者支援センターや警察等につなげるなどの支援を行

## 日本対がん協会から感謝状が授与される



左から石田対がん協会常務理事、中川会長、垣添同協会長

献をしたとして日本医師会に感謝状が授与された。

日本医師会では、日本対がん協会の「がんサバイバー支援及び予防・治療の支援のためのさまざまな活動を行ってきた。今回の感謝状はこれらの活動が評価され、贈られたものである。

感謝状を受け取った中川会長は、「大変ありがたい。コロナ禍ではあるが今後も多くの国民にがん検診を受けてもらえるよう努めることも、がんサバイバーに寄り添った支援を続けていきたい」としている。

また、強制性交で妊娠した被害者が受診した際には、痛みに寄り添いつつ、ワンストップ被害者支援センターや警察等につなげるなどの支援を行

してよいかという日本医師会からの疑義照会を踏まえ、通知の一部改正を行うことにより、同条文では加害者の同意は求めないとの解釈を明らかにした」と述べた。

パネルディスカッション  
パネルディスカッションでは、診療場において患者の背後にある暴力を見極める難しさから、医師会がバックアップすることを求める意見が出される一方、「中絶手術が可能な時期は法律により定められているため、第三者の判断を仰ぐ時間的余裕はない」との見解や、配偶者の自己決定権の問題も提起されるなど、都道府県医師会を交えて活

発な議論が行われた。

## 森七菜さん主演「なな色健康家族」動画の使用期限を2021年7月7日まで延長しました



数々の映画やドラマでも活躍中の森七菜さんが主演を務める動画「なな色健康家族」(4編)のデータの使用期限を、**2021年7月7日まで6カ月**延長することといたしました。ぜひ、ご活用下さい。

問い合わせ先 日本医師会広報課  
☎ 03-3942-6483 (直) ✉ kouhou@po.med.or.jp

メンバーズルーム「国民向け動画『なな色健康家族』」  
<http://www.med.or.jp/japanese/members/info/nanairo.html>



# 都道府県医師会だより

## 新型コロナウイルス感染症に対する取り組み

茨城県医師会



新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、日本医師会員の強力な団結の下、国民と共に、オールジャパンで、困難を乗り越えて参り

新型コロナウイルス対策都市等医師会長会議を令和2年3月4日に開催して以降、11月末まで計6回開催しています。○県との連携・協力 茨城県との意見交換会を4回開催しました。○医療機関に対する支援 ・県医師会員向け動画制作(体制整備、検体採取)

## 県民の皆さまへ 四師会からのメッセージ

～新型コロナウイルスの今を乗り切るために～

- 1 三密を避け、手洗いやマスク着用を励行しましょう
- 2 熱があり受診するときは、必ず、かかりつけ医療機関に電話をしてからにしましょう
- 3 過度な受診控えをせず、心配な場合はかかりつけ医療機関に相談しましょう
- 4 ひぼう 誹謗中傷は、絶対にやめましょう
- 5 気持ちがつかないときは、声をあげて助けを求めましょう

四 師 会

茨 城 県 医 師 会 茨 城 県 歯 科 医 師 会  
茨 城 県 薬 劑 師 会 茨 城 県 看 護 協 会

## 新型コロナウイルス「検体採取」動画

### 鼻咽頭ぬぐい液採取

- ・新型コロナウイルスで標準的かつ、信頼性の高い検体採取部位
- インフルエンザウイルスの検出量も多い
- ・反面、医療者が採取するため飛沫に曝露するリスクが高いため、

### 鼻咽頭ぬぐい液採取の準備

- 採取者:
- ①サージカルマスク
  - ②眼の防護具(ゴーグル、フェイスシールド等)
  - ③長袖ガウン
  - ④手袋

### 鼻咽頭ぬぐい液採取の流れ

- ①本人確認
- ②患者:マスク⇒鼻だけ少し下す。
- ③顔を少しそらせる。



モデル: 県医師会職員 (鼻血を出しながら...)

「次のインフルエンザ流行に備えた体制整備」「検体採取」の2本の動画を制作し、会員専用のWEBページに公開しています。

△次のインフルエンザ流行に備えた体制整備

冒頭のあいさつでは、鈴木邦彦会長が医療現場への敬意と感謝を述べるとともに、今冬のインフルエンザ流行に備えた体制整備に関して直接会員に語り掛ける内容となっています。

また、茨城県の担当課に体制整備のポイントを解説してもらうことで、会員への理解を促しています。

### 〈検体採取〉

診療・検査医療機関の指定を受け、自院にて新型コロナウイルスの検体採取を行う医療機関のために、最新の情報を盛り込みました。鼻咽頭ぬぐい液、鼻腔ぬぐい液(医療者)、鼻腔ぬぐい液(患者の自己採取)、唾液の四つの方法を収録しています(別掲)。

・医療機関掲示物の作成(医療機関を受診する際)

のお願い、新型コロナウイルス感染症に関する相談先が変わりました)

・季節性インフルエンザワクチンの供給不足改善に関する要望(日本医師会、医薬品卸業組合)

○県民への啓発・広報活動

四師会(茨城県医師

会・茨城県歯科医師会・看護協会)で別掲のメッ

セイジを発売しました。

会・茨城県薬剤師会・茨城県

子育て支援フォーラム in 大阪

若者が輝く社会を共に考える

※当日WEB配信あり。新型コロナウイルスの感染状況によりWEB配信のみの開催となる場合があります。

◆主催(共催)：日本医師会、公益財団法人SBI子ども希望財団、大阪府医師会

◆後援：厚生労働省他

◆日時：2月13日(土)午後2～5時

◆会場：大阪府医師会館2階ホール(〒543-8935 大阪市天王寺区上本町2-1-22 ☎06-6763-7012)

◆参加費：無料

◆申込方法：メール、FAX、はがきで大阪府医師会に、あるいは大阪府医師会ホームページの専用申し込みフォームからそれぞれ申し込み願います。

## 案内

### 子育て支援フォーラム in 大阪

若者が輝く社会を共に考える



※当日WEB配信あり。新型コロナウイルスの感染状況によりWEB配信のみの開催となる場合があります。

◆主催(共催)：日本医師会、公益財団法人SBI子ども希望財団、大阪府医師会

◆後援：厚生労働省他

◆日時：2月13日(土)午後2～5時

◆会場：大阪府医師会館2階ホール(〒543-8935 大阪市天王寺区上本町2-1-22 ☎06-6763-7012)

◆参加費：無料

◆申込方法：メール、FAX、はがきで大阪府医師会に、あるいは大阪府医師会ホームページの専用申し込みフォームからそれぞれ申し込み願います。

◆申込締切：1月29日(金)。定員(170名)になり次第締め切る。

◆主なプログラム：①あいさつ 中川俊男会長、茂松茂人大阪府医師会長

②基調講演「子ども虐待と脳科学」アタッチメント(愛着)の視点から

③「友田明美福井大学子どもこころの発達研究センター教授」

④総合討論

⑤問い合わせ・申し込み先：大阪府医師会地域医療1課 ☎06-6766-20075 nichikin@do.osaka.med.or.jp

⑥「今日の子ども家庭と社会的養育の現状と課題」(加賀美尤祥社会福祉法人山梨立正光生園理事長)

⑦「マルトリートメント家庭への、家族併行治療」(杉山登志郎福井大学子どもこころの発達研究センター客員教授)

⑧「今日の子ども家庭と社会的養育の現状と課題」(加賀美尤祥社会福祉法人山梨立正光生園理事長)

⑨「今日の子ども家庭と社会的養育の現状と課題」(加賀美尤祥社会福祉法人山梨立正光生園理事長)

⑩「今日の子ども家庭と社会的養育の現状と課題」(加賀美尤祥社会福祉法人山梨立正光生園理事長)

## 訃報

■岡田幹夫氏(静岡県医師会顧問・元会長、元日本医師会理事)



昨年12月11日、死去、90歳。通夜、葬儀は、近親者のみで執り行われた。氏は昭和5年静岡県出身。昭和30年東京慈恵会医科大学医学部卒業。昭和40年上野病院開業。静岡県医師会会長を経て、平成16年4月から平成18年3月まで日本医師会理事を二期務めた。

平成21年に旭日小綬章を受章している。

## 全国国民年金基金 日本医師・従業員支部案内

### 年金受給者の方は「源泉徴収票」の確認を

昨年1月～12月の間に当基金より、年金を受け取った受給者へ、今月中旬頃に源泉徴収票を送付する。国民年金基金の年金は、税制上の優遇措置として、「公的年金等控除」が適用される。確定申告の対象者は、源泉徴収票を大切に保管し、忘れずに手続き頂きたい。国民年金基金は、国民年金に上乗せを行う「公的年金制度」であり、年金給付への公的年金等控除の適用の他、掛金全額が社会保険料控除の対象となるなどの優れた税制上の優遇措置がある。

新規加入者のおよそ9割が、こうした基金の税制上の優遇措置を重視し、加入頂いている。未加入者は、新たな年の初めに当たり、国民年金基金への加入を検討頂きたい。

また、既加入者には、加入希望者の紹介を願っている(現在、薄謝進呈の加入キャンペーンを実施中)。

問い合わせは基金事務局(☎0120-700650)まで。

問い合わせは基金事務局(☎0120-700650)まで。

問い合わせは基金事務局(☎0120-700650)まで。



ニュースポータルサイト「日医 on-line」では、定例記者会見の映像等、さまざまな情報をご覧頂けるようになっています。ぜひご活用下さい。

<https://www.med.or.jp/nichiionline/>






# 南から北から

愛媛県松山市医師会報 第332号より

**2歳、バッタを飼う**

佐々木容子



先日、子どもの幼稚園の参観日に出席してきました。季節柄、秋の虫をテーマに虫の名前を当てるクイズをしたり、先生のピアノに合わせて歌ったりする子ども達の姿を見て、ほっこりした気持ちになりました。

参観日も終わりに近付いた時点で、先生が「今日はみんなにお土産があります。」と一声。子ども達に渡されたペットボトルの中にはバッタ。ポトルの中にはバッタ。おうちで飼えそうになかったら、そーと川原にでも逃がしてやってくださいね」と苦笑いする先生をよそに、子ども達は興味津々でバッタをのぞき、歓声をあげていました。私の息子も同様で、「可愛いね」とうっとり。その姿を見て、飼わざるを得なくなった次第です。

2歳の子どもが一人でお世話できるわけはないため、もれなく親が駆り出されます。私は家でペットを飼ったことが全くありません。経験、知識共にゼロの状態なので、まず、インターネットの


から、じーっと静かに見てあげてね」と言う。と、「はい、じーっとね」と素直に言うことを聞いてくれました(毎回素直ならどんなに楽か……)。

それ以降、息子は朝起きると「バッタさんおはよう」と言い、夕方採ってきたねこじやらしを「はいどうぞ」と虫かごに入れていきます。きゅうりも試しに与えてみまし

富山県富山市医師会報 第594号より

**成長の物差し**

土岐 善紀



時々、ゴルフに出掛ける。いや、結構出掛ける(今年は別として)。きっかりは大学6年の夏、叔父が5番と7番アイアンをくれたことだ。当時は年寄りのスポーツというより道楽と思っていたのでそれほど興味もなく、何

たが、ねこじやらしよりもお気に入り?と思わせるほど、よく食べていました(仕事帰りの雑草採りも面倒なのできゅうり率が上がりました)。相手はバッタですが、小さな命を大事にするというのを学んでくれたらと、親としては願っています。


子どもに親が振り回される毎日ですが、子どもから学ぶことも多く、存在の大きさを日々感じていきます。子どもに負けないうよう、私も日々精進していきななと思ひます。

夏坂健風と言えば、ラウンドが終わって「上手です」と言われるのは「自分のみ、同伴者はパートナーでありながら競う相手でもある。自律、責任、礼節。まるで校訓のようだ、人生に似ている。そんなところが中高年のハートをがっちりつかむのだ。というのは建前で、年寄りが若いもんをやっつけられる稀有なスポーツだからかも。「君もまだまだだなあ、ふっふ」など問はず語り、ひとくさり持論を聞かせ、苦いコーヒーを一口飲み干し、満足げにコースを眺める。ああ、いやらしい、けどたまらない。

鹿児島県鹿児島県医師会報 第830号より

**シライトソウ**

瀬戸上健二郎



さて、そんなゴルフだが、一方であり良くない印象を持たれる一面も否定しない。接待にゴルフが使われてきたのは事実。日本では企業間の接待ゴルフは文化とも言われるが、彼らの言葉を借りれば、これは接待という名の試験らしい。ひきょうな振る舞いがなければ、結果が悪くても言い訳しないか、最後まで努力するか、パートナーへの配慮があるかなどを、何億という商談や共同プロジェクトを進めるに当たって人物査定するのだ。うわ、これは別の意味で眠れん。

お盆を迎え、くだんの叔父の墓にも掌を合わせよう。もう「一緒に回る」ことはかなわなくなりました。しまったが、そんなゴルフアになっていきますか? 叔父さん!

「身近にあらながら、名前も知らず、気にも留めていなかったけど、よく見ると可愛い花ですね。天皇陛下の帽子の花飾りみたい……。」と。白糸で作った試験管洗用の可愛い棒タワシみたいと思っていたが、天皇陛下の帽子の花飾りの方が90歳前後の三姉妹には連想しやすかったみたい。

1、2週間だろうか、その時期を失すると少なくとも1年待たないといけない。幸いに、Fじいさんの娘さんたち三姉妹は健在で、花が咲いたら知らせて欲しいとお願ひしておいた。

あれから1年。「花が咲きましたよ」と、うれしい電話をもらったのはつい最近、令和2年6月6日。昨年の新聞のスケッチ欄も6月16日だったから、正しく6月の花である。

思い立ったが吉日。翌6月7日、新型コロナ騒ぎの合間を縫って、日帰り予定で島に渡ると三姉妹の家に直行。昔のままの広場に車を止め、40数年前に歩いた山道を歩くと、道はコンクリートで舗装され、昔の面影はない。幸いに、わずかに舗装されずに敷のまま残っているところがあり、そこに間違いなく、4、5株のシライトソウが咲いていた。

たが、そんなゴルフにまた、そんなゴルフに健康のため、知り合いが増える、家庭からの逃避?などゴルフアにはそれぞれの行く理由はあろうが、大の大人が前夜は遠足にも行くかのようにならざるを得ない。目を覚ましをセットし慣れぬ時間に布団に入る。結果寝不足なのだが、季節を問わず早朝の凜とした空気が好きだ。

試合に出るのもまた楽しい。技術、体力、メンタル、ゲームマネージメントなど自分に足りないものを見つけ追い掛け、また挑む。手術と似ている。

また、そんなゴルフに

(一部省略)



# 10 日本医師会 2020 大ニュース

## 1 中川執行部が発足

昨年6月27日に開催された第147回日本医師会定例代議員会において、中川俊男会長が選挙戦を制し、第20代日本医師会会長に就任することになった。就任後の記者会見で中川会長は、前執行部のあり方を継承しつつ、自身の思いを加味した新たな日本医師会をつくる決意を表明した。



## 2 「みんなで安心マーク」を発行

国民に安心して受診してもらうため、感染症対策をしっかりとっている医療機関に対して、昨年8月7日から「みんなで安心マーク」の発行を開始した。

また、PR動画も制作し、10月28日には動画に出演した佐々木希さんも出席の下、その発表会を日本医師会館で開催した。



## 3 医療界一丸となり、「医療緊急事態」を宣言



新型コロナウイルス感染症の患者急増に伴い逼迫する医療提供体制の崩壊を阻止すべく、四師会、四病院団体協議会並びに東京都医師会は昨年12月21日、緊急の合同記者会見を開催し、医療界の一致した意見として「医療緊急事態」を宣言した（詳細は1面参照）。

## 4 「新型コロナウイルス感染症対応医療従事者支援制度」「新型コロナウイルス感染症対応日本医師会休業補償制度」を創設

新型コロナウイルス感染症に感染、またはそれが原因で死亡した場合に、医療機関が少ない負担で医療従事者に対する補償を行うことができるように「新型コロナウイルス感染症対応医療従事者支援制度」を、また、濃厚接触も含め、一時的に閉院または外来閉鎖を余儀なくされた時の逸失利益や、家賃などの継続費用を補償するために「新型コロナウイルス感染症対応日本医師会休業補償制度」（会員限定）を創設するなど、医療従事者や会員医療機関経営の支援を行った。

## 5 「今後の感染拡大を見据えたPCR等検査体制の更なる拡大・充実のための緊急提言」を公表

中川会長は昨年8月5日の定例記者会見で、医師がPCR検査及び抗原検査が必要であると認めた場合に確実にPCR等検査の検査を実施できるよう、「保険適用によるPCR等検査の取り扱いの明確化」等を求める「今後の感染拡大を見据えたPCR等検査体制の更なる拡大・充実のための緊急提言」を公表。国に対して、財源の確保とともにその実現を強く求めた。

## 6 横倉前会長に日本医師会「名誉会長」の称号を授与

中川会長の発案により、横倉義武前会長に「名誉会長」の称号を授与することを昨年8月18日開催の令和2年度第6回理事会において決定した。

## 7 「日本医師会 COVID-19 有識者会議」を設置

新型コロナウイルス感染症の感染爆発と医療崩壊を防ぐため、日本の医学の叡知を結集することで、医学を基盤とする科学的根拠に基づく医療を構築することを目的として、日本医師会内に「日本医師会 COVID-19 有識者会議」を設置。昨年4月18日に第1回目の会議を開催した。

## 8 都道府県医師会長協議会を発展的に解消し、「都道府県医師会長会議」を開催

都道府県医師会長から積極的な政策提言を求める機会とするため、都道府県医師会より寄せられた議題について、執行部が答弁を行う形式で開催されてきた「都道府県医師会長協議会」を、中川会長の発案により「都道府県医師会長会議」に改変し、昨年9月15日に第1回目の会議を開催した。

## 9 日本医師会・日本医学会合同記者会見で 乳腺外科医控訴審判決に関する見解を示す

準強制わいせつ罪で起訴され、東京地方裁判所で無罪判決を受けた乳腺外科医に対して、東京高等裁判所が7月13日に逆転有罪判決を言い渡したことを受けて、中川会長は昨年7月22日、門田守人日本医学会長と合同記者会見を実施。判決は医学的にも問題が多いとして、強い抗議の念を示した。



## 10 記念誌「日本医師会 平成三十年の歩み」を発刊

日本の医療が「平成」という時代をいかに歩んできたのかを、日本医師会の歩みを中心に取りまとめた記念誌「日本医師会平成三十年の歩み」を発刊。都道府県・郡市区等医師会などに配布するとともに、日本医師会ホームページにも掲載した。

